

平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月4日

上場取引所 大

上場会社名 シダックス 株式会社

コード番号 4837 URL <http://www.shidax.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 志太 勤一

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 経理財務本部長 兼 IR担当 (氏名) 西川 聡

TEL 03-5784-8909

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	92,998	△4.7	2,161	—	1,601	—	220	—
23年3月期第2四半期	97,568	△3.6	191	△92.3	△196	—	△1,885	—

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 195百万円 (—%) 23年3月期第2四半期 △2,000百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	5.73	—
23年3月期第2四半期	△47.74	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	97,371	—	19,934	—	20.4	—
23年3月期	97,935	—	20,786	—	21.1	—

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 19,843百万円 23年3月期 20,678百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
23年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	195,500	0.2	6,100	41.5	5,200	28.1	710	—	18.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期2Q	40,918,762 株	23年3月期	40,918,762 株
24年3月期2Q	3,519,505 株	23年3月期	2,019,361 株
24年3月期2Q	38,489,491 株	23年3月期2Q	39,489,809 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についての御注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法)

当社は、第2四半期決算及び期末決算において、機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催しております。この説明会で配布しました資料を当社ホームページ(<http://www.shidax.co.jp/ir/>)に掲載しております。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	P. 4
3. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	P. 7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	P. 8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 継続企業の前提に関する注記	P. 11
(5) セグメント情報等	P. 11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興へ向けた政策やサプライチェーンの復旧などにより、輸出や生産に係る経済活動に回復の兆しがみられたものの、原子力発電所事故に伴う電力不足及び放射能拡散の影響、欧州の金融不安を背景に長期化する円高や株価の低迷、デフレ経済の進行により先行き不透明な状況が続いております。また、個人消費におきましても、震災及び原子力発電所事故の影響による消費の自粛、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化により、生活防衛意識や節約志向が高まるなど、企業を取巻く環境は厳しく推移しております。このような市場環境のもと、当社グループは、“フードサービスから公共サービスまで提供可能な水平垂直統合型の企業構造”で他社との差別化を図り、高品質・高付加価値のサービスを提供するとともに、より一層の「安心・安全」な管理体制の強化、グループ総合力を活かした営業拡大に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は92,998百万円（前年同四半期比4.7%減）となりました。利益面につきましては、営業利益は2,161百万円（前年同四半期比1,026.3%増）となり、経常利益は1,601百万円（前年同四半期は196百万円の経常損失）、四半期純利益は220百万円（前年同四半期は1,885百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① エスロジックス事業

当社グループのスケールメリットを最大限に活かし、安全性・信頼性の高い商品を徹底した衛生管理体制で一括発注・配送を展開してまいりました。また、一元物流システムをより合理的に活用できるよう、標準メニュー導入の促進、調達コストの削減、幹線物流再編による物流コストの見直しなどに努めるとともに、同業他社とのアライアンスによる共同購買機構によって、スケールメリットを最大限に活用し、収益性の向上にも努めてまいりました。さらに、健康効果が期待される食事メニューの開発、トレーサビリティ、アレルギー関連など、付加価値の向上にも努め「安心・安全」な食材の供給を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の内部売上高を含めた売上高は23,097百万円（前年同四半期比15.9%減）、セグメント利益は2,187百万円（前年同四半期比1.9%減）となりました。

② コントラクトフードサービス事業

大手同業他社との競争激化に加え、各企業の生産調整・人員配置の見直しなどによる雇用環境の悪化によって、経営環境は大変厳しい状況にあります。このような環境のもと、「美味なる、減塩フェア」などのイベント展開、一元物流システムの導入強化、コスト管理の徹底、食材メーカーの集約によるスケールメリットの追求、赤字店舗の運営改善強化、既存店舗の解約防止などによって収益性の向上を目指してまいりました。また、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、車両運行管理サービスや社会サービスを含んだ総合的なソリューション提案を既存店舗で行い収益向上を目指すとともに、新規案件とも連動して開発を強化し、事業拡大に努めてまいりました。さらに、福島県相馬市と避難所、仮設住宅への食事提供システム「シダックス・そうま方式」を共同開発、車内に厨房設備を完備したキッチンカーを企画・設計し、相馬市に寄贈するなど、震災支援活動にも積極的に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は15,425百万円（前年同四半期比5.8%減）、セグメント利益は919百万円（前年同四半期比4.9%増）となりました。

③ メディカルフードサービス事業

経済情勢により病院などの経営環境が厳しい状況の中、同業他社との競争は厳しさを増す状況が続いております。このような環境のもと、「美味なる、減塩フェア」などのイベント展開、一元物流システムの導入強化、コスト管理の徹底、食材メーカーの集約によるスケールメリットの追求、赤字店舗の運営改善強化、既存店舗の解約防止などによって収益性の向上に努めてまいりました。また、高品質なサービスの提供を行うとともに、セントラルキッチンを活用した「やわらかマザーフード食」など独自色の強い商品の提供を行い、お客様満足度の向上に努めてまいりました。さらに、トータルアウトソーシングを意識した新規クライアントの営業開発にも努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は18,671百万円（前年同四半期比1.8%減）、セグメント利益は681百万円（前年同四半期比40.1%増）となりました。

④レストランカラオケ事業

震災の影響による宴会・イベントの自粛、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化により、生活防衛意識、節約志向が高まり、お客様のレジャーに対する意識も一段と冷え込み、低価格競争が厳しくなっており「巣ごもり消費」などの言葉に象徴されるような厳しい個人消費環境となりました。このような環境のもと、春・夏メニューの推進、「ゆったりランチ」の強化・推進、ゴールデンウィーク期間売上の10%相当額を義捐金として寄付する「元気に歌って、支援に参加しよう！」キャンペーン(寄付総額:119百万円)、2011サマーキャンペーン「シダックスの夏」などのイベント展開、水曜日女性ケータイ会員限定2時間無料(1オーダー制)の「レディースデー」、木曜日男性ケータイ会員限定2時間無料(1オーダー制)の「メンズデー」、時間帯別にご利用されるお客様にお得なバック「おトクなバックシリーズ」、女性会員様だけの特別企画「女子会PACK」の推進、2時間スイーツ食べ放題「スイーツパーティーコース」を開始、携帯ゲーム機で遊べる「ゲームバック」の提供、マスメディア連動企画の取り組み、「USTREAMルーム」の提供等、様々な集客施策を行い、販売促進を強化するとともに、全店舗の照明をLED化し節電を実施、コスト管理を徹底し、収益性の向上に努めてまいりました。また、iPhoneアプリ「レストランカラオケ・シダックス」にケータイ会員証機能を追加、ケータイサイト「シダックスクラブ モビーバ」もスマートフォン向けのページを全面リニューアルするなど、ケータイ会員を拡大し集客を図るとともに、ターゲットを明確にしたOne to Oneマーケティングによる個々の顧客へのアプローチを確立し、マーケティングの精度・効果の向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は23,161百万円(前年同四半期比0.2%減)、セグメント利益は684百万円(前年同四半期は1,540百万円のセグメント損失)となりました。

⑤スペシャリティーレストラン事業

米国における状況は、失業率が高止まりし、米国の債務問題等により株価、個人消費動向が、先行き不透明な状況にあります。このような環境のもと、季節メニューイベントの実施等により売上増加に努めるとともに、不採算店の撤退、既存店の材料費及び労務費の徹底管理による収益性の向上に努めてまいりました。

国内における状況は、震災の影響による外食・イベントの自粛、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化による生活防衛意識、節約志向の個人消費傾向により、外食離れ、低価格サービスへのニーズの高まりなど、競合との競争が激化し、事業を取り巻く環境は厳しさを増しております。このような環境のもと、復興支援メニュー、夏メニューフェアの推進やイベント企画の強化、インターネットによるサービスプランの実施により、集客力アップを図るとともに、コスト管理の徹底を行い収益性の向上に努めてまいりました。また、お客様の多種多様なニーズにお応えするためのメニュー開発及び接客サービスの向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は8,674百万円(前年同四半期比2.7%減)、セグメント損失は338百万円(前年同四半期は383百万円のセグメント損失)となりました。

⑥コンビニエンス中食事業

同業他社、大手コンビニエンスストアとの病院内出店の競争激化や、経営状況の厳しい病院、学校、工場の縮小、閉鎖などにより、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、新規店舗を21店舗出店、POSを効果的に活用し品切れ防止対策を図るなど、積極的、効率的な売り場展開を行い、店舗内外の営業強化に努めてまいりました。飲料・アイス・沖縄フェアなどの催事・イベントや紙オムツなどの衛生商品の販売促進に努めるとともに、赤字店舗の改善を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は6,997百万円(前年同四半期比12.9%増)、セグメント利益は195百万円(前年同四半期比6.6%減)となりました。

⑦トータルアウトソーシング事業

公共サービス分野では、地方自治体予算の削減や行財政改革推進の遅れ、また、民間サービス分野では、各企業の震災の影響による自粛感に、欧州における金融不安が重なり、コスト意識のさらなる高まり、同業他社との競争激化などにより、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、車両運行管理業務においては、お客様のニーズに応じた車両運行管理の提案を行い既存取引先の管理営業強化に努めるとともに、民間法人取引の拡大に努めてまいりました。社会サービス業務においては、愛知県半田市、山口県周南市において学校給食センター業務を受託、青森県青森市、栃木県宇都宮市において図書館業務を受託する他、民間法人において一括アウトソーシングを新たに受託するなど、グループ総合力を活かした営業活動により、シェア拡大と収益向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は17,964百万円(前年同四半期比0.8%減)、セグメント利益は899百万円(前年同四半期比13.5%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ563百万円減少し97,371百万円(前連結会計年度末比0.6%減)となりました。流動資産においては、2,850百万円増加し31,549百万円となりました。これは主に、現金及び預金が2,842百万円増加したことによります。固定資産においては、3,414百万円減少し65,822百万円となりました。これは主に、有形固定資産が3,275百万円減少したことによります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ287百万円増加し77,437百万円(前連結会計年度末比0.4%増)となりました。流動負債においては、1,034百万円増加し42,183百万円となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が953百万円増加したことによります。固定負債においては、746百万円減少し35,254百万円となりました。これは主に、社債が1,562百万円増加した一方、その他に含まれているリース債務が1,625百万円及び長期借入金762百万円減少したことによります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ851百万円減少し19,934百万円(前連結会計年度末比4.1%減)となりました。これは主に、四半期当期純利益220百万円の計上があった一方、剰余金の配当583百万円により利益剰余金が339百万円減少したことに加え、取締役会決議による自己株式取得により自己株式が466百万円増加したことによります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.7ポイント低下し20.4%となりました。

(キャッシュ・フローの状況に関する分析)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ2,842百万円増加し11,181百万円(前連結会計年度末比34.1%増)となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、4,858百万円の資金増加(前年同四半期は2,818百万円の資金増加)となりました。これは主に、法人税等の支払額が689百万円あった一方、税金等調整前四半期純利益が1,439百万円、減価償却費が3,787百万円及びのれん償却額及び負のれん償却額が428百万円あったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、1,157百万円の資金減少(前年同四半期は819百万円の資金減少)となりました。これは主に、有形固定資産の売却による収入が253百万円あった一方、有形固定資産の取得による支出が437百万円、無形固定資産の取得による支出が533百万円及び敷金及び保証金の差入による支出が476百万円あったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、849百万円の資金減少(前年同四半期は7,024百万円の資金減少)となりました。これは主に、社債の発行による収入が1,954百万円あった一方、リース債務の返済による支出が1,877百万円、配当金の支払額が581百万円及び自己株式の取得による支出が466百万円あったことによります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年6月22日に公表いたしました通期の連結業績予想について変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,570	11,413
受取手形及び売掛金	12,462	13,105
商品及び製品	1,400	1,483
原材料及び貯蔵品	1,119	1,190
その他	5,180	4,391
貸倒引当金	△35	△35
流動資産合計	28,698	31,549
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,800	19,604
その他(純額)	12,686	10,607
有形固定資産合計	33,487	30,211
無形固定資産		
のれん	10,997	10,567
その他	1,956	2,191
無形固定資産合計	12,954	12,758
投資その他の資産		
敷金及び保証金	10,491	10,628
その他	13,180	13,536
貸倒引当金	△877	△1,312
投資その他の資産合計	22,795	22,851
固定資産合計	69,236	65,822
資産合計	97,935	97,371

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,314	8,686
短期借入金	236	403
1年内返済予定の長期借入金	13,511	14,464
1年内償還予定の社債	300	475
未払法人税等	500	506
ポイント引当金	330	314
役員賞与引当金	59	50
賞与引当金	2,115	2,050
株主優待引当金	179	128
その他	15,601	15,102
流動負債合計	41,148	42,183
固定負債		
社債	50	1,612
長期借入金	26,686	25,923
役員退職慰労引当金	556	537
資産除去債務	3,034	3,081
その他	5,672	4,099
固定負債合計	36,000	35,254
負債合計	77,149	77,437
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,781	10,781
資本剰余金	3,277	3,277
利益剰余金	8,618	8,278
自己株式	△664	△1,130
株主資本合計	22,012	21,206
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	58	41
為替換算調整勘定	△1,392	△1,403
その他の包括利益累計額合計	△1,334	△1,362
少数株主持分	107	90
純資産合計	20,786	19,934
負債純資産合計	97,935	97,371

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	97,568	92,998
売上原価	87,463	80,642
売上総利益	10,105	12,355
販売費及び一般管理費	9,913	10,194
営業利益	191	2,161
営業外収益		
受取利息	12	10
受取配当金	5	7
団体定期配当金	112	142
投資有価証券割当益	55	—
負ののれん償却額	79	79
その他	82	66
営業外収益合計	348	305
営業外費用		
支払利息	646	591
寄付金	—	150
その他	90	123
営業外費用合計	736	865
経常利益又は経常損失(△)	△196	1,601
特別利益		
貸倒引当金戻入額	39	—
固定資産売却益	—	37
保険差益	—	11
退店補償金受入益	27	—
その他	2	—
特別利益合計	69	48
特別損失		
固定資産除却損	7	—
貸倒引当金繰入額	—	158
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,025	—
その他	27	52
特別損失合計	2,061	210
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,187	1,439
法人税、住民税及び事業税	630	662
法人税等調整額	△945	552
法人税等合計	△314	1,215
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,873	223
少数株主利益	12	3
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,885	220

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△1,873	223
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△28	△17
為替換算調整勘定	△98	△10
その他の包括利益合計	△127	△28
四半期包括利益	△2,000	195
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,012	192
少数株主に係る四半期包括利益	12	3

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,187	1,439
減価償却費	3,437	3,787
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,025	—
のれん償却額及び負ののれん償却額	434	428
賞与引当金の増減額(△は減少)	32	△63
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△44	148
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△74	△50
受取利息及び受取配当金	△18	△17
支払利息	646	591
投資有価証券割当益	△55	—
固定資産売却損益(△は益)	—	△37
固定資産除却損	7	—
保険差益	—	△11
退店補償金受入益	△27	—
売上債権の増減額(△は増加)	477	△628
たな卸資産の増減額(△は増加)	19	△179
未収入金の増減額(△は増加)	933	175
仕入債務の増減額(△は減少)	920	375
未払消費税等の増減額(△は減少)	△447	98
未払金の増減額(△は減少)	△974	△480
未払費用の増減額(△は減少)	△271	63
預り金の増減額(△は減少)	47	166
その他	175	288
小計	5,056	6,093
利息及び配当金の受取額	18	16
利息の支払額	△659	△576
保険金の受取額	—	13
退店補償金の受取額	82	—
法人税等の支払額	△1,679	△689
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,818	4,858

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△484	△184
定期預金及び拘束性預金の払戻による収入	483	184
有形固定資産の取得による支出	△1,289	△437
有形固定資産の売却による収入	1,056	253
無形固定資産の取得による支出	△356	△533
投資有価証券の売却による収入	53	—
子会社株式の取得による支出	△30	△22
敷金及び保証金の差入による支出	△302	△476
敷金及び保証金の回収による収入	68	116
その他	△18	△57
投資活動によるキャッシュ・フロー	△819	△1,157
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	8,253	411
短期借入金返済による支出	△6,270	△238
リース債務の返済による支出	△2,610	△1,877
長期借入れによる収入	725	6,432
長期借入金返済による支出	△5,589	△6,213
社債の発行による収入	—	1,954
社債の償還による支出	△262	△262
配当金の支払額	△611	△581
自己株式の取得による支出	△650	△466
その他	△9	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,024	△849
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	△8
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△5,032	2,842
現金及び現金同等物の期首残高	13,291	8,338
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,258	11,181

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフード サービス 事業	レストラ ンカラオ ケ事業	スペシャ リティー レストラ ン事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウトソ ーシング 事業	計		
売上高										
外部顧客に対する 売上高	4,188	16,382	19,005	23,213	8,913	6,199	18,112	96,015	1,553	97,568
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	23,267	253	3	49	31	—	69	23,675	808	24,484
計	27,456	16,635	19,009	23,263	8,945	6,199	18,181	119,691	2,362	122,053
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	2,228	876	486	△1,540	△383	209	1,039	2,917	72	2,989

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,917
「その他」の区分利益	72
セグメント間取引消去	△34
全社費用(注)	△2,763
四半期連結損益計算書の営業利益	191

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結累計期間において、のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第2四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフ ードサー ビス事 業	メディカ ルフ ードサ ービス 事業	レストラ ンカラ オケ事 業	スペシャ リテー ャレス トラ ン事 業	コンピ ニ エンス 中 食事 業	トータル アウト ソー シング 事業	計		
売上高										
外部顧客に対する 売上高	568	15,425	18,671	23,161	8,674	6,997	17,964	91,463	1,534	92,998
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	22,528	329	7	23	32	7	74	23,003	864	23,867
計	23,097	15,754	18,678	23,185	8,707	7,004	18,039	114,466	2,398	116,865
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	2,187	919	681	684	△338	195	899	5,229	137	5,367

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,229
「その他」の区分利益	137
セグメント間取引消去	△156
全社費用(注)	△3,049
四半期連結損益計算書の営業利益	2,161

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結累計期間において、のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第2四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。